

会議状況等報告書							報告者	林 理帆			
会議の名称		令和4年度第1回大府市文化懇話会									
日時		令和4年7月8日(金) 15時00分~16時30分					場所	委員会室1			
出席者	委員	安田 文吉	加藤 武志	伴恵	間瀬 結子	越後谷 卓司	張悦	山内 副市長			
		○	○	○	○	○	○	○			
	事務局	岡村 市長	信田 部長	田中 課長	大河内 係長	永露 主任	林 主任	小田原 館長	内藤 館長	松井 館長	
		○	○	○	○	—	○	○	○	○	
傍聴者 0名											
内容											
<p>1. あいさつ</p> <p>◆市長あいさつ</p> <p>新型コロナウイルス感染症によりこの2年間、文化行事の開催に影響を受けたが、今年度はつつじまつりや民踊講習会、市芸術祭「リア王」を3年ぶりに開催し、市主催以外の行事としては、大府駅前・共和駅前の夏祭りを開催予定。</p> <p>また、鈴木バイオリン製造株式会社が本社工房を市内へ移転したことをきっかけにバイオリンを活用したまちづくりを進めていきたいと考えており、先日、北山小学校4年生にバイオリンの授業を実施した。この他にも、鈴木バイオリン presents ロビーコンサートを定期的で開催しているほか、秋には大府みどり公園野外クラシックコンサートの開催も予定している。新型コロナウイルス感染症の影響も懸念されるが、無事に開催できると良いと思っている。</p> <p>また、市内の文化芸術団体については、大府ばやし小唄保存会が創立45周年の節目の年となるため、45周年にふさわしい活動を計画されているとのことであり、楽しみにしている。</p> <p>コロナ禍で開催することのできなかつた様々な事業も今年度は感染症対策を施しながら開催していきたいと考えている。</p> <p>文化懇話会でも皆さまの様々なご意見をいただきながら進めていきたいと思うので、よろしく願います。</p> <p>◆安田文吉先生あいさつ</p> <p>大府市はとて前向きに文化芸術事業を企画・開催しており大変素晴らしいことだと思っている。</p> <p>私自身も小学生のころ、縦笛やフルートを吹いていた。市長あいさつでも話に出た「バイオリンを活用したまちづくり」について、バイオリンだけでなく楽器の種類を増やしていくと子どもたちももっとおもしろくなると思う。また、この他にも子ども歌舞伎や子ども落語もとても大事である。昨今はマスクを付けざるを得ないため、表情が分からないこ</p>											

とが多いのが残念。

最近は、文化芸術活動がまた盛んになってきており、大府市でも新たな文化芸術事業を考えられるのは素晴らしいことだと思う。ぜひ皆でがんばってほしい。

2. 委員・事務局自己紹介

◆新任委員より挨拶

伴委員) 現在、文化協会茶華道部の会長を務めている。退職してから文化協会では茶華道を始め、歌や短歌など、様々なことを勉強させてもらっており、このような趣味の活動がとても楽しみである。ところが、最近メンバーも高齢化しており、本格的なお茶会が開催されるのはつつじまつりのみで、文協まつりや盆梅展ではお茶を提供するのみの活動になっているのが課題である。

今後も、茶華道で様々な活動をしていきたいと考えているので、文化懇話会で何か活動のきっかけとなり、日々の活動の活性化のために関わっていくことができたらよいと考えているので、よろしく願います。

張委員) 中国出身であり、21年前に日本へ来た。現在は福祉交流の事業を営んでおり、この他にも小学校で英語のアシスタントや、大府市国際交流協会の活動を手伝っている。

今後、日本も外国人が増えてくることが予想されるため、外国人が持っている自国の文化に関する知識などを引き出し、より豊かな文化交流、国際交流ができればと思っている。

◆各委員より挨拶

◆事務局自己紹介

3. 座長・副座長選出

座長に加藤武志委員、副座長に間瀬結子委員を選出

◆加藤座長あいさつ

皆さんのお役に立てるような進行を務めたいと思う。

先ほど安田先生もおっしゃっていたとおり、大府は文化面で様々な取組をしており、大府に来るのはとても楽しみである。新しい委員も加わり、良い文化懇話会となるように務めたいと思うので、よろしく願います。

◆間瀬副座長あいさつ

おおぶ文化交流の杜が開館する前年に大府市役所を訪れた際、偶然、おおぶ文化交流の杜の開館に向けてワークショップを開催するというポスターを見つけたことがきっかけで、ワークショップに参加することとなったが、そのワークショップがとても楽しく、この先の大府での生活にとってもワクワクした思いだった。改めて大府市は良いところだと思う。一市民として精一杯努めていきたいのでよろしく願います。

4. 議題

(1) 令和3年度下半期事業実績について

・資料No.1-1、1-2に基づき事務局説明

〈各施設からの補足〉

愛三文化会館館長)

・愛三文化会館指定管理者事業は、中止となった行事が多い。やはり、参加団体・参加人数を踏まえると、大人数が集まるイベントが多かったため中止せざるをえなかった。

・おおぶ映画祭はとても苦労した。映画祭の知名度が上がり、185点の応募があった。1本60～90分であるため、審査に要する時間の苦労が本数に比例する。仮に1本30分間と計算しても、全て見ると90時間はかかるため、審査員12人全員に90時間見ていただくのは大変である。これを回避するためには、エントリー期間をある程度設け、先着順〇本までと制限したり、審査の時間を長めに確保したりと、募集・審査方法を再考する時期が来ていると感じる。

アローブ館長)

・カルメラ音楽会 2022 と HOOK ウクレレコンサートは新型コロナウイルス感染症の第6波のときであり、客席数を制限するのか迷いながら何とか実施した。

・イタリアオンラインツアー&オリーブオイル試食会は、イタリア・ローマと中継をつなぎ、参加者にイタリアにいる気分を味わってもらいながらオリーブオイルへの興味を育んでもらった。

歴史民俗資料館館長)

令和2年度と比較すると、歴史民俗資料館の令和3年度の入館者数は4割増、ウェブサイトアクセス件数は3割増という状況。

〈意見交換〉

委員) おおぶ映画祭の審査時間に関する苦労について、公募形式はやはり審査が大変である。短編映画祭だと作品も短い、山形ドキュメンタリー映画祭だと1本6時間のものがある。

私自身の経験した映画祭の場合、一次審査は審査員全員が観ることはない。審査員で分担して2～3人で同じものを観てディスカッションする。本当は審査員全員で観るのが理想的であるが、2～3人で観るのであれば、その中で議論して意見が分かれても、片方が推すのであれば残そうとか、逆に、どうみても良いとはいえないので下げようかなど、うまく意見が分かれるため判断しやすい。

委員) アローブミニコンサート TGIF に参加していたとき、演出も手掛ける出演者・タナカアリフミさんがピーアンドピー（愛三文化会館の舞台設営担当であり指定管理者）をととても褒めていた。昨今、映画界のハラスメントが相次いでおり、怒号がとびかうのが常態化しているとも聞くが、ピーアンドピーのエリアマネージャーと新人社員が、実験的な内容にも関わらず事業の趣旨を理解して取り組んでくれたことに対し、とても喜んでいるとのことであった。

委員) 大府市は多彩な活動をしており感心している。私自身も興味を持ったものがたくさんある。アローブで開催したイタリアオンラインツアー&オリーブオイル試食会について、試食は実施できたのか？

アローブ館長) 施設内にあるカフェオムレットで料理し、距離をとったうえでアクリル板を設置しながら試食会を開催した。それでも心配な人のためにテイクアウトを用意し、自宅でも楽しんでもらえるよう工夫した結果、多くの方がテイクアウトを利用された。

助言者) 先ほどの映画祭の審査方法についてだが、小論文も同じで、3人で審査した場合、平均すると標準的な結果となる。良い評価もあればそうでない評価もあるが、3人とも良い評価であればその論文は良い論文であるということ。経験上、3人審査はそれが良い。

(2) 令和4年度事業計画について

・資料No.2に基づき事務局説明

〈各施設からの補足〉

愛三文化会館館長)

事業計画の中に鈴木政吉生誕祭があるが、鈴木バイオリンは今年で135周年を迎えるため、鈴木バイオリン側も気合いが入っている様子。出演者であるタケカワユキヒデ氏は鈴木バイオリンの遠い血縁であり、鈴木バイオリンはギターも製造しているのでご縁がある。また12月11日は鈴木政吉の誕生日であり、今年は偶然にも生誕祭当日と重なる。

アローブ館長)

本日配付したチラシの紹介等

「おおぶ文化交流の杜パーカッションのタベ」はおおぶの育み隊が作成したチラシであり、既に満席となっている。

歴史民俗資料館館長)

本日配付したチラシの紹介等

〈意見交換〉

委員) アートオブリスト2022はワークショップとレクチャーの形式で行うということが良いか?

事務局) アートオブリストについては、育み年と大々的に開催する年があり、今年は育み年であるため、来年度に向けた導入となるような企画を考えながら新しいことを検討する年にしたい。また、国際あいち芸術祭2022と協力していきたい。

委員) バイオリンの里構想の実現について、先日、北山小学校4年生のバイオリン授業を見学したが、2時間でキラキラ星が弾けるようになっており驚いた。本当は授業の時間を4時間確保できると良いと話していたが、2時間でも結構弾くことができるようになっていた。授業を受けてバイオリンに興味を持った子どもたちにはスズキメソードに行ってもらえると良いと思う。また、今年から指定管理者制度を導入している東山児童老人福祉センターも、バイオリン教室を開催している。このような事業を通して将来の竹澤恭子氏や水野紗希氏のような子どもが出てくると良いと考えている。

また、5/14,5/15に『バイオリン／フィドル音楽の休日』プレイベント」という商工会議所と市観光協会が中心となって企画したイベントを開催した。こちらについてもバイオリンの里構想の実現を目指したイベントの一環となる。今回はプ

レイベントであったが、10/22, 10/23 に本番のイベントを開催する。市主催の大府みどり公園野外クラシックコンサートとあえて同日にあいち健康の森で開催することで、市内全体がバイオリンの日になれば良いと考えている。天気が心配であるが、ぜひ足を運んでほしい。

委員) ピアスイとはどのようなイベントなのか？

事務局) 文化デザイン塾の方がピアノを貸してくださったのが始まり。謝礼はないが、弾きたい人が弾くイベント。たまたま市役所へ来庁した人が耳を傾けるだけでなく、勤務中の職員も耳を傾けている。

委員) 演奏者として応募する方は事前応募制なのか？

事務局) 弾きたい人が事前に応募する仕組み。これまでの応募人数も多く、出演者の都合もふまえながら日程調整を行っている。

委員) 外国の人が披露するイベント、例えばファッションショーなどをどこかで開催できたら良いと思っている。

事務局) 今年度、民謡講習会や子ども歌舞伎教室を3年ぶりに開催している。毎年開催していたときと比べると、事務担当者や参加者も変わり、開催のノウハウを忘れてしまいがちである。やはり人と人とのつながりを保ち続けるためにも、様々な事業を毎年、定期的で開催していく必要があると感じている。

委員) 文化協会の茶華道部においても、つつじまつりが2年間開催することができなかつたため、前述の意見と同じように感じている。

歴史民俗資料館の広いところで、お茶の席をやれたらよいと思っている。また、愛三文化会館の3階にある茶室を体験教室として使うのはどうかと文化協会事務局から提案を受けたため、できるところから取り組んでいきたいと思う。

助言者) 7/30～10/10 国際芸術祭あいち 2022 が開催されるため、注目している。

トンボは前しか進まず後退しないが、このように何事も前向きな考え方が大事だと思っている。

また、今年度の子ども歌舞伎教室については、お稽古期間が短いと感じている。稽古が大事である。勤務先である大学のオーケストラサークルの顧問も務めているが、やはりこちらも稽古が大事であり、練習期間が短いので心配しているが、限られた期間で最大限の力を発揮してほしいと思っている。

5. その他

【次回開催連絡】

第2回大府市文化懇話会

令和4年11月16日(水) 午後3時30分～